偶成（木戸孝允）

才子は　才を　恃み　愚は　愚を　守る
少年の　才子は　愚　なるに　如かず
請う看よ　他日　業　成るの　後
才子は　才ならず　愚は　愚ならず

才子特才愚守愚　少年才子不如愚
請看他日業成後　才乙不才愚不愚

解説　世の中のことを考えながら、たまたま作ったといった感じの詩。おそらく周囲の人間の実例を見ての感慨であろう。

語釈　※才子＝頭がよく、頭の働きのすばやい人。
※恃才＝才気をたのみにして自信をもつ。※守愚＝おろかなことを□覚して、そのやり方で努力を続ける。※少年＝若者、七日少年。
※他日＝後日。将来。

通釈　才子はその才気に自信を持って努力しないが、愚かなものは自分の愚かさを自覚して、それなりに努力を加える。青少年のころは才子であるよりは、愚人であるほうがよいのである。その証拠に、将来成功した暁には、以前才子であったものは、だんだん才気が失せて愚物となり、愚鈍と思われた人物が実は愚鈍ではなく、りっぱに立身出世している。これを見ればかかるであろう。